

(様式第4号) 市民による事業評価(地域リーダーの育成) 会議概要

1	審議会名	市民による事業評価(地域リーダーの育成 第4回)
2	日時	平成25年7月1日(月) 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会場	川西公民館 第一学習室
4	出席者	大井定雄TL、関美佐子STL、長崎理恵子委員、鈴木 永委員 西沢宗夫委員、丸山かず子委員、宗田光一委員、柳沢裕子委員 山田英喜委員
5	市側出席者	山宮市民参加・協働推進課長、鳴沢福祉課長、神林中央公民館長 倉沢塩田公民館長、綿内川西公民館長、北沢市民参加・協働推進担当係長 深町健康福祉調整担当係長、工藤塩田公民館次長、上原川西公民館次長 中村行政改革推進室長、西沢行政改革推進係長、他行政改革推進室2名
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成25年7月10日

協議事項等

1	開 会(中村行政改革推進室長)
2	チームリーダーあいさつ(大井チームリーダー) 以下、チームリーダーを「TL」、副チームリーダーを「STL」
3	議 事
(1)	前回会議録の確認 ・修正なく承認
(2)	評価対象事業の説明 ア「農ある里山暮らしのすすめ講座」「川西里山・水辺をつなぐ会」について ・資料に沿い、倉沢塩田公民館長、綿内川西公民館長から説明 ・以降、審議
(TL)	塩田公民館、川西公民館の事業についてご質問を受けたい。
(委員)	この二つの事業については、これまでの予算ではとても少なすぎると思う。今まで以上に充実させた事業を、特に塩田や川西という地区で率先してやっていくべきではないか。 全国から福島県の丹野さんのような方を招いて、子どもたちも全国から招き里山を見てもらい、地域の里山の活性化につながるような事業を市が率先して行ってほしいと思っている。
(委員)	確かに、里山に対して関心があるのはわかるが、里山とは何か定義をはっきりしておかないとならないと思う。民有林には許可を得なければ手を入れられない。里山の保全をやるからには、市有林を整備するのか、民有林も含めるのかを明確にする必要があると思う。 また、有機農業とは、農薬や有機肥料を使わずに生産した農産物であるが、4、5年前に法律で定義された。有機農業というものを知ったうえでやるのであればいいが、有機農業で生産されたものは値段が高く、虫が付いていることもある。そういった商品を消費者は買ってくれるのか。有機農業と言えば聞こえはいいが、実際、有機農業で出来たものは3~4倍の値段で売らなければ採算が合わない。 このようなことを考えると、この事業は公民館の域を超えているのではないか。販路の確保等まで考えると、農政課等の専門部署で事業を行う方がより発展するのではと

思う。

里山を活性化させるには公民館ではなく、農政部局が本腰を入れて上田地域の発展のためにやるのであれば大いに賛成であり、集中的に投資するのであれば効果は高いと考える。

(事務局) 今回説明した事業については、民有地もあるが全て了解を得ながら進めているものであるので、ご承知おきいただきたい。

(委員) 「川西里山・水辺をつなぐ会」の事業については、これまでの取組を川西地区全体として次にどうつなげていくかがポイントであり、「農ある里山暮らしのすすめ講座」の事業については、里山を守っていくのか、有機農業を広めていくのか事業の方向性を検討する時期に来ていると感じる。

(委員) 地域リーダーの育成という観点から、二つの事業に携わった専門性を備えたリーダーの方に、限定された地域だけでなく、他地域へ事業を報告するような場でも活躍していただきたいし、上田市の様々なところで出向いていくようなリーダーを今後育てていただきたいと思う。

(事務局) これからの「川西里山・水辺をつなぐ会」のあり方について提言をいただいた。また、委員からの質問にも、NPO 法人化したらどうかという提言もあったが、会としても、公民館事業としてではなく自立して運営したいということで、今年度のわがまち魅力アップ応援事業に申請したところ。徐々に会として独立していこうとしているところなので報告させていただきます。

(委員) 人材育成ということであれば、受講後、講座に参加された方の中から熱心な方をリーダーとして育成するとともに、その活躍の場を行政としても支援してもらえればと思う。

また、里山というテーマについては、他の公民館でも講座等行っているようだが、上田市全体として捉え、それぞれ連携し事業を行えば予算付けも違ってくると思われるので、今後の課題として検討していただければと思う。

(事務局) 「農ある里山暮らしのすすめ講座」は3年前から開設しているが、ご意見があったとおり事業の焦点が絞られていないこともあるため、受講生の意見も聞きながら今後の方向性を検討したい。

(T L) 課題を考えるきっかけづくりとしては公民館主催でいいと思うが、今後は、受講生の中からリーダーが育っていくような環境づくりも大切なのではないか。また、若い方の参加が今後のひとつの課題になっていると思うが。他にご意見はあるか。

(委員) 理想はいいかもしれないが、公民館事業として有機農業と里山が荒れている問題をひとつのテーマとしていることに無理があるのではないか。

荒廃農地の復元は、農政部局の問題として考えることが妥当と思う。

(事務局) 荒廃農地対策については、農政部局主体で別に対応もしている。今回の公民館事業は、あくまでも地域の公民館が主体となった地域活動という位置づけで行っているもの。

異なる論点となってしまうため、恐縮だがご理解いただきたい。

(T L) この公民館事業は、地域の課題解決のきっかけを作ることを目的に行っているもので、その点をご理解いただきたい。

(委員) 「農ある里山暮らしのすすめ講座」だが、先ほどの説明では、参加された方は家庭菜園を目的とした方が多く、農業を仕事とする方の参加が少ないとのことであったが、有機栽培について、販路の開拓についても講座の一部に入れば若い人の参加も増えてくるのではないか。

(委員) 公民館として事業の方向性をどう捉えているのか。農業のプロを育成するための講座なのか、それとも、家庭菜園の延長上のものとして捉えているのか。それによってリーダー

の意味合いも違ってくると思う。

農業のプロを育てるのであれば、公民館事業ではなく農政部局の事業としてやる必要があると思うし、市としてももう少し整理し進めた方がいいのではないかな。

(事務局) 公民館はあくまでも学習の場として捉えている。

(委員) 農業のプロを育成するのか、単なる家庭菜園の範囲の学習の場とするのかで結果は全く異なると思う。

ひとつ提案だが、ボランティアの力を借り、荒れている民地を整備できないか。他県では、竹伐採体験としてボランティアを募集すると都市からも集まるようである。

公民館やNPOなどがそのような取組をすることで全国的にも有名になり、上田に行こうというキャッチフレーズにもなり、上田市の知名度も上がるのではないかな。

(事務局) それぞれ地域の団体でそのような活動を行っているところはある。

(委員) 地域によって抱えている課題がそれぞれ違うが、住民に関心を持ってもらい、活動の仲間になってもらうきっかけづくりとしては川西公民館の方法などは参考になるのではないかな。お金をかけずとも、住民にどのように関心を持ってもらい事業を進めていくかという事は、これからの上田市全体の課題ではないかと思う。

(T L) 各公民館間で、同様の事業を行う際に情報交換はしているのかな。

(事務局) 個別の事業について参考にするため話を聞くことはある。

(T L) 今後は、公民館全体での連携も必要と思うが。

(事務局) 9つの公民館間では、公民館だよりの交換、月一度の館長会、また、公民館主事会等を開催しているので、情報の交換は行われている。

(委員) 若干議論と外れるが、公民館長は忙しすぎるのではないかと感じる。地域のリーダーを育成するにしても、地域のリーダーが相談を持ちかける場合は公民館であるので、公民館の相談体制を整えるよう人的配置をもう少し考慮していただきたいと思う。

地域のコーディネート役も公民館の機能としてあると思うので、その機能を果たす意味でも、地域リーダーの育成という面で大事かと思う。

(事務局) 公民館は、人と人、グループとグループ、人と役所のパイプ役でもあるので、館長に限らず、公民館職員が地域のコーディネート役を果たせるようにしたいと思っている。

また、公民館は地域づくりの担当窓口ということでもあるため、いくつかの公民館長は市民参加・協働推進課の地域振興政策幹事も兼ねている。各地域の担当職員の配置も検討される中で、公民館の配置も場合によっては検討されるかもしれない。

(委員) 過去に、行財政改革推進委員会から、公民館業務について市長部局に移管するべきとの提案がされたが。

(事務局) 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の中で、公民館や文化的な業務は教育委員会では執れないという制限があったが、現在は法が改正され、条例を整備すれば市長部局でも可能となった。しかし、上田市は、前出の市民参加協働部と教育委員会が連携しながら地域づくりを行っていくこととしているため、今のところ公民館を市長部局に移管することは考えていない。

(委員) 例えば、熱意を持って団体を立ち上げ頑張っているが、その方の意思を継ぐ人がいない。やはり、熱意を次代へ引き継いでいくことも大いに頑張ってもらい、他の地域にもそれを広げてほしいと思う。定年退職した人が一生懸命頑張っているが、その意思を引き継いでいく、次代へ繋ぐリーダーが育っていないという課題があるので、検討をお願いしたい。

(委員) リーダーとして地域で活躍したいという若者にとってみれば、どの分野のどこに参加すれば次はどのようにになっていくか、という全体像が分かるものがなければリーダーの育成

にはつながっていかないのではないか。見える部分は見えているが、見えない部分は全く見えないため全体像がイメージできない。全体像が見える工夫も必要と思う。

(委員) 公民館が市民協働の窓口であるということを知らなかった。貸館を主な業務とする一般的な見方としてしか公民館を見ていなかったため、窓口になってくれると分かり嬉しく思った。しかし、市民はそのことについて知らないのではないか。

(T L) 地域のリーダーは60代が中心で、なかなか若手が育たないという話があるが、地域内分権を進める中で市の方針が明確になっていないのではないか。「地域経営会議」についてもなかなか市の方針も決まらず足踏みしているというような感じを受ける。

(事務局) 合併後の新しい上田市の地域づくり、その中心になる組織についてご提案しながら、それぞれの地域でご検討いただいている状況であるが、地域内分権の第4ステージに入った中で、市から提案している「地域経営会議」等へつなげていく基本的な考えが不明確であるとの話であった。

確かに考え方の大枠についてはお示ししているが、地域ごとに状況が違っていて、それぞれの地域の实情に即した将来の形をそれぞれご検討いただいております。市としても、地域内分権の中で、予算と権限を地域に委譲していきたいと考えている。

また、公民館としても地域づくりの窓口という位置づけになっており、各地域自治センターに公民館長が地域振興政策幹として配置されているところである。

市からお示ししている考え方がイメージしづらいもので大変恐縮ではあるが、各地域によって実情がそれぞれ異なるという状況があり、将来的に各地域でどのように地域を形成していくかそれぞれご検討いただければと思う。

いずれにしても、今後の住民自治組織の設置に向け、地域ごとに策定している「地域まちづくり方針」をどのように具現化していくか、どのような住民自治組織を作っていくといいかということ、地域の様々な団体の皆さんがお集まりいただく中でご検討いただきたいと考えている。

(T L) 地域リーダーの育成においては、公民館長においても市民協働という立場で地域のマネジメントする役割を十分果たさないと地域のリーダーは育ちづらいのではないかと思う。

本日は時間となったので、これまでとしたい。

(3) 次回の開催日程について

・第5回(視察) 平成25年8月5日(月)午前

4 閉 会